

## 建築生産管理、建築技術集団だからこそ、「歴史地区の修景」 に積極的に関わるように主導していきたい。

報告 (社)日本建築士会連合会 副会長 小黒利昭



11月7日、建築会館(東京三田)で、日本建築士会連合会後援による講演会が開催された。主催は**京都女子大学家政学部斎藤英俊研究室**。ヨーロッパ・アジア地区における「歴史地区のデザインコントロール」の研究・調査・指導に関する7名のパネラーによる報告事例とデスクッションが行われた。

主催者・斎藤教授は、「埋め込み建築にはアーキテクトの創造性を発揮する必要性があり、4年間の科学研究費を得て、歴史地区における『修景』をどのようにやっていけばよいのかを探っていきたい。

修景には、①全体との調和 ②オリジナルである部分での区別 ③歴史的客観性が大事であり、その上で**質の高い建築がなされているか、デザインの質が重要です。**」と話した。

**藤本昌也会長**は、「今回参加させていただいたのは、アーキテクトが、こうしたシンポジウムを通して、歴史地区における建築設計とマネジメントについて、もっとまちに向けて、地域における建築とはどういうことかを学ぶことになると思います。

全体の建築界において、まちづくり・設計・構造・設備施工・木造・生産・行政・教育という建築に関わるほぼ全領域にわたる技術者集団が建築士会連合会であり、幅広い分野を網羅しているのも、伝統という我が国特有の生産システムがあるからです。

建築士の地域における理念としては、**①地域社会が共有する建築資産・社会資産を維持する ②地域固有の条件に照らし合わせて建築する**の2点が挙げられます。これまでのように、クライアントに向き合い、敷地の中だけで建築を考

えるだけではなく、建築生産管理、建築技術集団の我々の団体だからこそ積極的に貢献すべきだと思います。これが私たちがこのシンポジウムに参加する大きな理由です。」

最後に藤本会長は、歴史地区に積極的に関わり活動している『兵庫県建築士会』を紹介し、「県の要請により2001年から歴史的建造物を保存し、まちづくりに活かす能力を持ったヘリテージマネージャー(歴史的遺産活用推進員)を育成し、活動を支援しています。(2009年まで受講者数222名の9割が修了し、県に登録)

現在、地域に根ざした建築・まちづくりに関わる建築技術集団を統括する**コミュニティ・アーキテクト**を養成・推進に向け、研究会で勉強会を開催し、来年から積極的に取り込もうと準備していますが、今回、このシンポジウムの歴史地区におけるデザインとマネジメントも大きな有望な建築士の領域と考えます。今後も協力体制のもと、共に取り組んで参ります。」と話した。

今日、参加したパネラーも5カ国7名と国際色豊か。**ジークフリート・エンダース**(ドイツ・元ヘッセン州文化財保護局保存建築家)、**パオラ・ファリーニ**(ローマ大学教授)、**胡昊**(フハオ 上海交通大学管理学院教授)、**金珠也**(キムジュヤ 金泉科学技術大学准教授)、**ヨハネス・ウイッド**(シンガポール大学教授)、**サン旭光**(サンシュウガン 金島理工大学建築学院副教授)がそれぞれ今後の課題を含めて講演をした。

**コミュニティ・アーキテクト(C・A)**とは、まちづくりの担い手である地域住民を「行政」と共にサポートする「専門家」の存在が不可欠ということから、その役割を果たす「統括建築士」をC・Aという名称で、今後の建築士会連合会の大きな柱の一つになるものとして位置づけられている。

パネリストには、来年のUIA2011東京

大会で、日本建築士会連合会が支援事業として9月27日に開催する「コミュニティ・アーキテクトシンポジウム」に出席する**吉良森子氏**と**北尾靖雅氏**の姿もあった。

**建築家の吉良氏**は2004年からオランダ、アムステルダム市の第一環境委員会の委員を務め、今年委員長である。「アムステルダムの景観委員会の仕組み・背景・審査」と題し、6年間の経験をもとに審査のプロセスを説明。

「審査では周辺と調和しながらも現代性と歴史性が重層し、ディテールまできめ細かくデザインされているプロジェクトへと誘導することが一番重要です。建築を設計する者にとって一つの建物でできることは限られています。近隣やまち全体とクオリティと繋がってこそ地区全体の空間的、社会的、不動産的価値を持続し、高めていくことができます。」と話した。



**京都女子大学准教授の北尾氏**は、「ドイツの地方小都市の建築デザインの実態調査を紹介。「建築デザインにタウンアーキテクトがデザインコーディネーションに深く関与し、30年間に渡って市当局と契約を結んで歴史地区の環境形成の役割を担ってきた。

ポイントはタウンアーキテクトが携わったことによって、デザインコントロールが長い期間調和できたのではないかと。日本でもデザインコードは一律には決められませんが、地方の現況に応じてデザインコードを作って運用するためにもC・Aのような人たちの役割が非常に重要になってくるのではないかと。根本の問題は、デザインコードとして都市構造まで考えていく必要があるのではないかと。問題点も最後に投げかけた。